

令和6年度(令和5年度実績)

鳥羽市教育委員会の事務に関する

点検・評価報告書

令和 7 年 1 月

鳥羽市教育委員会

目 次

第1章 基本事項

I 鳥羽市が目指す教育	1
II 教育委員会の事務に関する点検・評価	1
1. 趣旨	1
2. 点検・評価の対象	2
3. 点検・評価の方法	2

第2章 点検・評価事項

I 教育委員会の運営状況	3
1. 教育委員会の構成	3
2. 教育委員会の会議	4
3. 活動の周知及び情報発信	6
4. 教育委員の自己研鑽	9
5. 教育委員会だより	9
6. 情報公開について	10
7. 総合教育会議について	10
8. 教育委員会の運営に対する外部評価	11
II 「第2次鳥羽市教育ビジョン」の取り組み	12
【施策1】しっかり学ぶ子どもを育てる	12
【施策2】子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進	21
【施策3】多様な個性を認め合う豊かな心と健やかな体を育てる	25
【施策4】地域・家庭とともにある園・学校づくり	33
【施策5】生涯学習やスポーツの推進	41
【その他の施策】寝屋子の島留学事業	50
【報告書全体を通しての意見】	51

■ 第 1 章 基本事項

I 鳥羽市が目指す教育

多様な社会を生き抜く、

知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成

本市は「誰もがキラめく鳥羽 海の恵みがつなぐ鳥羽」を将来の都市像に掲げています。次代を担う本市の子どもたちは、その実現のための大きな力になることは間違いありません。子どもたちが輝く未来のために自分を磨き、人間性と創造力を豊かにし、社会参画意識と行動力を高めることができる環境を整えていくのは、大人の責務です。

本市では、「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」を目標とし、学校・園・家庭・地域のさらなる連携のもと、未知の課題へ直面する子どもたちに育むべき力を明確にし、取り組みを進めます。

そのために、学校教育を充実させ、地域全体で取り組む教育を推進し、生涯学習・スポーツの振興を図っていきます。

II 教育委員会の事務に関する点検・評価

1. 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用した点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

教育委員会では、法の趣旨に則り、効率的かつ効果的な教育行政の推進を図るとともに、教育委員会の責任体制の明確化を図り、市民の方々への説明責任を果たすために、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、報告書として作成しました。

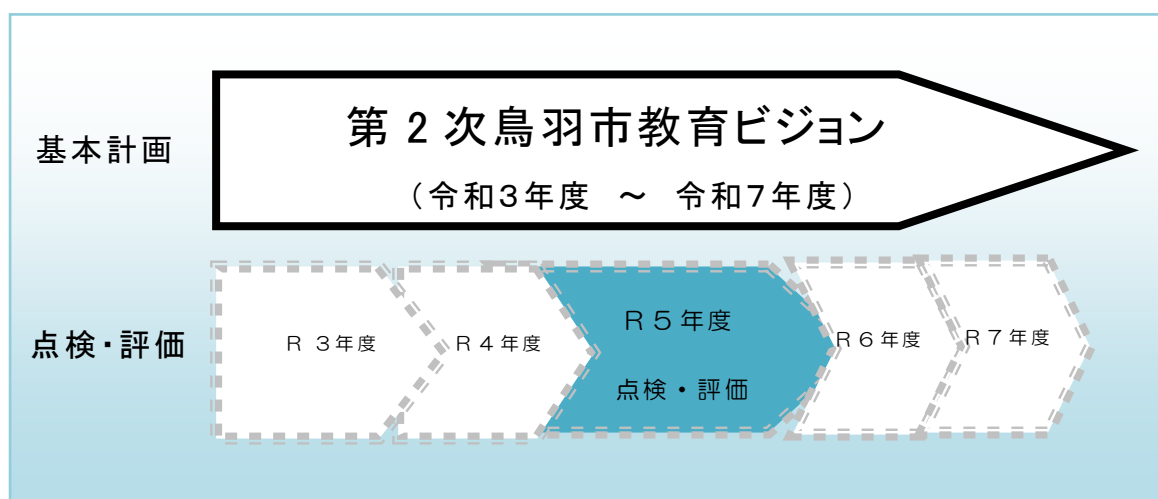
【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 点検・評価の対象

本報告書では、令和5年度鳥羽市教育委員会の運営状況および「第2次鳥羽市教育ビジョン（令和3年度～令和7年度）」に基づく、令和5年度の主な取組を点検・評価の対象としました。



3. 点検・評価の方法

教育委員会の運営状況および「第2次鳥羽市教育ビジョン」に基づいて行った令和5年度の事務（教育委員会が管理・執行する事務）に関し、成果指標などに基づいて自己評価を行った後、教育に関する学識経験者から意見聴取を行いました。

点検・評価報告書については、議会への報告と市ホームページへ掲載し、公表します。

【学識経験者（外部委員）名簿】

氏名（敬称略）	役職等
市田 敏之	皇學館大学准教授
福井 光生	元小学校長

■第2章 点検・評価事項

I 教育委員会の運営状況

1. 教育委員会の構成

令和5年10月1日付けで、教育委員 奥村 楠治氏が再任されました。
その他、令和5年度中の教育委員の交代は、ありませんでした。

【教育委員会名簿】

令和4年12月24日～

	氏 名	任 期	備 考
教育長	小竹 篤	令和4年10月1日～令和7年9月30日	
委 員	中島 幸代	令和3年10月1日～令和7年9月30日	
委 員	浅尾 美沙	令和2年10月1日～令和6年9月30日	
委 員	奥村 楠治	令和元年10月1日～令和5年9月30日	
委 員	中村 和久	令和4年12月24日～令和8年12月23日	教育長職務代理者

令和5年10月1日～

	氏 名	任 期	備 考
教育長	小竹 篤	令和4年10月1日～令和7年9月30日	
委 員	中島 幸代	令和3年10月1日～令和7年9月30日	
委 員	浅尾 美沙	令和2年10月1日～令和6年9月30日	
委 員	奥村 楠治	令和5年10月1日～令和9年9月30日	
委 員	中村 和久	令和4年12月24日～令和8年12月23日	教育長職務代理者

【教育委員会制度の概要】

- 教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置。首長から独立した行政委員会としての位置づけ。
- 教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体の事務を執行。

2. 教育委員会の会議

鳥羽市教育委員会会議規則の規定に基づき定例会を開催しています。

令和5年度は12回（定例会12回）を開催し、合計54議案を審議、可決・承認しました。

会議日程は、市の告示板に掲出しています。

【開催状況】（開催回数：定例会12回、審議等議案数：53件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定例会 （議案）	1 (13)	1 (8)	1 (0)	1 (2)	1 (5)	1 (1)	1 (0)	1 (3)	1 (2)	1 (0)	1 (7)	1 (12)	12回 (53件)
臨時会 （議案）													0回 (0件)

【主な内容】

期日	議案等	主な協議件名
4月定例会 (R5.4.25)	議案 (13件)	鳥羽小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		答志小中学校学校運営協議会委員の委嘱について
		神島小中学校学校運営協議会委員の委嘱について
		菅島小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		加茂小中学校学校運営協議会委員の委嘱について
		安楽島小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		弘道小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		鳥羽市学校評議員の委嘱について
		鳥羽市心身障害児就学指導委員会委員の解委嘱について
		鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命について
		鳥羽志摩地区教科用図書採択協議会規約の制定について
		鳥羽志摩地区教科用図書採択協議会委員の任命について
		鳥羽市学校体育施設開放運営委員会委員及び管理指導委員の委嘱について
5月定例会 (R5.5.30)	議案 (8件)	鳥羽市青少年育成指導員の委嘱について
		鳥羽市文化財調査委員の委嘱について
		鳥羽市立中央公民館館長・主事及び分館主事の解任命について
		鳥羽市立海の博物館運営協議会委員の委嘱について
		鳥羽市社会教育委員及び公民館運営審議会委員の委嘱について
		鳥羽市放課後子ども総合プラン運営委員の委嘱について
		鳥羽市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
		鳥羽市部活動検討委員会委員の解委嘱について

7 月定例会 (R5. 7. 25)	議 案 (2 件)	鳥羽市立海の博物館運営協議会委員の委嘱について
		令和 5 年度鳥羽志摩地区小学校教科用図書採択協議会について
8 月定例会 (R5. 8. 28)	議 案 (5 件)	就学等に関する規則の一部改正について
		鳥羽市立海の博物館の設置及び管理に関する条例の一部改正について
		鳥羽市文化財保護規則の一部改正について
		鳥羽市運動施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
		鳥羽市運動施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則
9 月定例会 (R5. 9. 26)	議 案 (1 件)	鳥羽市新入生等応援金支給事業実施要綱の制定について
11 月定例会 (R5. 11. 21)	議 案 (3 件)	令和 6 年度教職員人事異動基本方針（案）について
		鳥羽市運動施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
		鳥羽市運動施設の申請期間に関する規程の制定について
12 月定例会 (R5. 12. 22)	議 案 (2 件)	令和 6 年度土曜日の授業の実施（案）について
		鳥羽市学校内科医の解委嘱について
2 月定例会 (R6. 2. 26)	議 案 (7 件)	令和 5 年度（令和 4 年度実績）鳥羽市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について
		令和 6 年度教職員人事異動（案）について
		学校の管理に関する規則の一部改正について
		鳥羽市立小中学校事務の共同学校事務室協議会設置要綱の一部改正について
		鳥羽市小中学校結核対策委員会設置要綱の廃止について
		鳥羽市立小中学校事務処理規程の廃止について
		鳥羽市立小中学校事務処理規程の制定について
3 月定例会 (R6. 3. 22)	議 案 (12 件)	鳥羽市学校内科医の委嘱について
		鳥羽市学校眼科医の委嘱について
		鳥羽市学校耳鼻科医の委嘱について
		鳥羽市学校歯科医の委嘱について
		鳥羽市学校薬剤師の委嘱について
		鳥羽市中心身障害児就学指導委員会規則の一部改正について
		鳥羽東中学校区学校再編生徒通学費補助金交付要綱の一部改正について
		地域学校協働活動推進員の委嘱について
		鳥羽市社会教育指導員の任命について
		中学生世代の新たな地域クラブ活動準備・推進計画（案）について
		鳥羽市立新中学校設立準備会設置要綱の制定について
		鳥羽市スクールバス運行管理規程の制定について

【議案の種別】

【議決の状況】（付議事項数：53件）	件数
① 教育に関する事務の管理及び執行の基本方針	4件
② 教育委員会規則、規程等の制定・改廃	15件
③ 学校及びその他教育機関の設置及び廃止	0件
④ 協議会・審議会委員等の任免・委嘱	29件
⑤ 教育委員会事務の点検・評価	1件
⑥ 議会提出議案に関する意見	2件
⑦ 教科用図書の採択	1件
⑧ 通学区域の設定・変更	1件
⑨ 文化財の市指定	0件
⑩ その他	0件

※ 上記議案のほか、教育ビジョンに基づく教育施策や、児童生徒の状況、学校の運営や行事、学校統合計画に関わる協議などを行いました。

※ 各会議の会議録については、市ホームページ上で公開しています。

3. 活動の周知及び情報発信

ホームページや広報とば、行政放送、とばメール等、様々な手段や方法により情報発信を行いました。

（1）鳥羽市ホームページのトップページにおいて、告知を行いました。

掲載月	所管課	内 容
R5.4	学校教育課	鳥羽市教育支援センターHARP・ながおか教室のご案内
R5.4	学校教育課	就学援助費制度について
R5.4	生涯学習課	地球塾第21期生の募集について
R5.4	生涯学習課	地域スポーツ指導者育成事業補助金について
R5.8	生涯学習課	戦国武将九鬼嘉隆と九鬼水軍
R5.10	学校教育課	教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査の結果について
R5.11	生涯学習課	令和5年度子どもスポーツフェスティバルについて
R5.10	総務課	令和6年度鳥羽市立かもめ幼稚園の入園募集について
R5.9	学校教育課	令和5年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

R5.12	生涯学習課	令和6年度地域文化財総合活用推進事業（地域伝統行事・民俗芸能等継承振興事業）募集案内
R5.12	学校教育課	三重県鳥羽市答志島「寝屋子の島留学事業」について
R5.12	生涯学習課	鳥羽市20歳（ハタチ）の会（成人式）
R6.1	生涯学習課	山田優杯 鳥羽エペ・フェンシング大会
R6.1	総務課	令和5年度高等学校通学費等補助事業について
R6.3	総務課	答志中学校の統合に関する意向調査について（答志地区）
R6.3	生涯学習課	学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行について
R6.3	学校教育課	令和6年度鳥羽市立小中学校土曜日の授業実施予定

（２）「広報とば」による情報発信を行いました。

掲載月	担当課	内 容 ・ 件 数
4月1日号	生涯学習課	・人権文化の花を咲かせよう
	学校教育課	・お知らせ 1件
5月1日号	生涯学習課	・鳥羽城本丸跡（旧鳥羽小学校運動場跡）における迷惑行為の禁止について ・「地球塾」塾生募集 ・人権文化の花を咲かせよう ・募 集 2件
	総務課	・お知らせ 1件
6月1日号	生涯学習課	・鳥羽大庄屋かどやが開館10周年を迎えました！
	学校教育課	・お知らせ 2件（就学援助制度・教科書展示会）
7月1日号	生涯学習課	・コラム なるほど！うみはく ・人権文化の花を咲かせよう
	学校教育課	・魚を食べよう Vol.14 おさかな体験記 第2回いわしのあらめ巻きを作ってみた
8月1日号	生涯学習課	・募 集 1件（鳥羽市民文化祭の展示作品と音楽芸能の部新規出演者） ・人権文化の花を咲かせよう
9月1日号	学校教育課	・魚を食べよう Vol.15 おさかな体験記 第3回太刀魚の干物作りに挑戦！！
10月1日号	生涯学習課	・第65回鳥羽市民体育大会参加者募集 ・第48回鳥羽市民文化祭を開催します ・人権文化の花を咲かせよう ・お知らせ 1件

	総務課	・令和6年度幼稚園児・預かり保育園児募集 ・お知らせ 1件
11月1日号	生涯学習課	・コラム なるほど！うみはく ・鳥羽市民文化祭を開催します ・お知らせ 1件
	学校教育課	・お知らせ 2件（新入生等応援金の支給・子ども作品展） ・魚を食べよう Vol.16 鳥羽の魚を味わおう！ ～風の島菅島～サメのたれづくり
12月1日号	生涯学習課	・お知らせ 3件
	学校教育課	・募集 1件（第57回御木本奨学生）
1月1日号	生涯学習課	・第27回「海の香りのする詩」 ・インバウンドをテーマにした講演会を実施します ・人権文化の花を咲かせよう
	学校教育課	・魚を食べよう Vol.17～日本一 魚をおいしく食べるまち鳥羽～鳥羽が好き！ふるさと給食
		・鳥羽市新入生等応援金の支給について ・お知らせ 2件 ・募集 2件
2月1日号	生涯学習課	・第17回美し国三重市町対抗駅伝 ・パブリックコメント 1件（中学生世代の新たな地域クラブ活動準備推進計画） ・人権文化の花を咲かせよう
	総務課	・お知らせ 1件
3月1日号	生涯学習課	・令和5年度鳥羽市スポーツ優秀選手・優秀団体・体育功労者表彰 ・コラム なるほど！うみはく ・人権文化の花を咲かせよう ・お知らせ 1件
連載	生涯学習課	・図書館だより

（３）「行政放送」による情報発信は実施しませんでした。

（４）「とばメール」やフェイスブックなどを活用し、各種事業のお知らせ、啓発活動を行いました。

1/1 ・インバウンドをテーマにした講演会を実施します
・人権文化の花を咲かせよう

11/1 ・鳥羽市民文化祭を開催します

4. 教育委員の自己研鑽

研修会への参加などで教育行政への理解を深めるとともに、積極的に各学校の現場へ出向き、子どもたちとのふれあいや学校の現状把握を行うなど、委員活動の充実に努めました。

また、関係機関と連携した活動や定期的な勉強会の開催など、委員間の意見交換や情報共有を通じて、自己研鑽に努めました。

開催日	内 容	場 所
R5. 5. 25	鳥羽志摩地区教科用図書採択協議会	志摩市役所
R5. 7. 14	鳥羽志摩地区教科用図書採択協議会	志摩市役所
R5. 9. 15	鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会	市民体育館
R5. 11. 14	市長・教育長・教育委員とPTAの語る会	鳥羽商工会議所かもめホール
R5. 11. 22	研究発表会	安楽島小学校
R6. 3. 22	第1回鳥羽市総合教育会議	鳥羽市役所
年間	・ 学校訪問等 10件 ・ 勉強会 12件	市内各学校等 教委会議室等

5. 教育委員会だより

教育委員会の機関紙である「教育委員会だより」を年に2回発行し、教育委員会に関する活動の情報発信を行いました。

【発行状況】発行回数：2回（10月・4月）

発刊月	内 容
9月 (第26号)	・ より良い教育環境を目指して～学校統合再編と鳥羽東中学校校舎の改修～ ・ かもめ幼稚園夏のお楽しみ会 ・ 避難所に泊まって学ぼう ・ 地域学習から育つ地域愛～安楽島小学校の取り組み～ ・ くじら祭に地域の子どもたちが参加 ・ 文化財紹介 菅島灯台
4月 (第27号)	・ 令和6年度教育予算の概要 ・ 教育委員会ってどんなところ ・ 子ども自身が判断し、創造力豊かなプレーを（鳥羽JFCのご紹介） ・ 新中学校の設立に向けた準備会について

6. 情報公開について

教育委員会が管理・執行する事務に係る情報公開請求の実績は、下記のとおりでした。

- ・行政情報の公開状況

件数	全部公開	部分公開	不受理
8	8	0	—

- ・個人情報の公開状況
公開請求無し。

7. 総合教育会議について

総合教育会議は、市長と教育委員会の対等な執行機関同士が協議・調整を行う場として、平成27年度から開催されています。

令和5年度は3月22日に開催され、市長と教育委員が「支援を必要とする児童・生徒の現状」や「通学路の安全確保」「学校施設（廃校舎）の活用方針」などについて、意見交換を行いました。

【自己評価と今後の取組】

- ・ホームページや広報とば、行政放送、教育委員会だよりなどの媒体を活用し、教育委員会の取り組み等の情報発信に努めました。今後も教育委員会や学校の活動等について、積極的な情報発信を行っていきます。
- ・総合教育会議における市長と教育委員会との意見交換により、これからの子育て支援策や教育課題について情報共有を図ることができました。今後も、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図っていきます。

8. 教育委員会の運営に対する外部評価

教育委員会の運営状況等に関係する外部委員からの意見等は、下記のとおりでした。

【委員からの意見等】

<委員 A>

- 教育委員会の構成、会議、情報発信等、いずれも適切に運営されている。また、首長部局との連携についても、総合教育会議を通じて実現が図られていることを窺うことができる。引き続き、適正な行政運営を継続いただきたい。

<委員 B>

- 例年をベースとしながら適切に実施されている。「ホームページ」「広報とば」の連載を通じて、身近な企画を提案し、広く市民への啓発活動が積極的になされている。
- 教育委員の自己研鑽としての勉強会や学校訪問を例年のように実施できたことは、多様化する教育課題への向き合いがあったと思われる。感じたことを積極的に教育委員会の会議での議事、議案に反映されることを今後とも期待したい。

Ⅱ 「第２次鳥羽市教育ビジョン」の取り組み

多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成

【計画の体系】

【施策１】しっかり学ぶ子どもを育てる

- (１) 基礎学力と情報活用能力を育成する教育
- (２) 英語教育を通してコミュニケーション能力を育てる教育

【施策２】子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進

- (１) 自尊感情と郷土愛を育む教育
- (２) 環境問題や農水産業を柱とした海洋教育

【施策３】多様な個性を認め合う豊かな心と健やかな体を育てる

- (１) 多様性やグローバル化へ対応した教育
- (２) 個に応じた支援を通して誰一人取り残さない教育
- (３) 健康や体力の向上に視点をあてた教育

【施策４】地域・家庭とともにある園・学校づくり

- (１) 地域とともに歩む園・学校の教育
- (２) 家庭・地域と連携した幼児教育
- (３) 安全・安心・快適な教育環境の整備

【施策５】生涯学習やスポーツの推進

- (１) 社会教育施設の充実と活用
- (２) 感性を育むアートに親しむ創作機会や環境の創出
- (３) 人財や文化財を活用した生涯学習
- (４) 生きがいと活力を育む生涯スポーツの推進

【施策１】しっかり学ぶ子どもを育てる

(１) 基礎学力と情報活用能力を育成する教育

- ① 確かな学力と意欲を定着させる
- ② 学校・園・家庭・地域の連携
- ③ 新しい学習課題への取組
- ④ 誰一人取り残さない学びの保障

【主な取組と成果】

① 確かな学力と意欲を定着させる

教育振興事業

(旧 学力向上推進事業)

令和5年度決算額	4,079 千円	(前年度決算額)	2,927 千円
----------	----------	----------	----------

児童生徒の学力向上を図るため、全国学力・学習状況調査などの結果を基に学力向上委員会で指導方法を協議し、授業の改善に努めました。

へき地教育振興事業

令和5年度決算額	136 千円	(前年度決算額)	136 千円
----------	--------	----------	--------

へき地複式教育に関わる団体への補助を行い、へき地複式校における教育環境の整備支援を行いました。

教育支援事業

(旧 児童生徒支援事業)

令和5年度決算額	16,608 千円	(前年度決算額)	3,032 千円
----------	-----------	----------	----------

小学校教育振興事業

(旧 理科教育振興事業〈小〉)

令和5年度決算額	6,830 千円	(前年度決算額)	6,042 千円
----------	----------	----------	----------

中学校教育振興事業

(旧 理科教育振興事業〈中〉)

令和5年度決算額	5,933 千円	(前年度決算額)	5,993 千円
----------	----------	----------	----------

各小中学校に必要な各種教材備品、学校図書備品を整備するとともに、GIGA スクール構想に伴う ICT 教育におけるサポート環境を整備しました。

また、市内の小中学校が一堂に会し、活動の成果を発表する学校音楽祭の開催や修学旅行等の校外学習における各種補助を行い、学習環境の充実を図りました。

② 学校・園・家庭・地域の連携

教育振興事業

(旧 教育振興管理事業)

令和5年度決算額	4,079 千円	(前年度決算額)	2,927 千円
----------	----------	----------	----------

「地域とともにある学校づくり」の推進を図るため、小学校にコミュニティ・スクール(学校運営協議会)を設置し、保護者や地域の方々が協働して、教育活動や学校運営ができる仕組みづくりを行いました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査の正答率	全国平均と ほぼ同じ	全国平均より 小学校 △ 3.2ポイント 中学校 △ 4.5ポイント	全国平均を3ポイント 以上上回る
授業の内容は「よくわかる」の回答率	小学校 36.7% 中学校 34.3%	小学校 43.3% 中学校 28.6%	小学校 60% 中学校 60%

○学校別児童・生徒数（令和5年5月1日現在）

<小学校>

区分 学校名	児童数（人）	学級数		
		普通	特別支援	計
鳥羽	164（17）	6	4	10
答志	40（1）	4	1	5
神島	8（0）	3	0	3
菅島	20（1）	3	1	4
加茂	106（6）	6	2	8
安楽島	216（13）	10	3	13
弘道	40（2）	4	1	5
計	594（40）	36	12	48

（注）（ ）内の数は、特別支援学級児童数（内数）、学級数は実学級数

<中学校>

区分 学校名	生徒数（人）	学級数		
		普通	特別支援	計
鳥羽東	252（6）	9	1	10
答志	25（0）	3	0	3
神島	7（0）	3	0	3
加茂	51（2）	3	1	4
計	335（8）	18	2	20

（注）（ ）内の数は、特別支援学級児童数（内数）、学級数は実学級数

<幼稚園>

区分 幼稚園名	園児数（人）				学級数
	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	
かもめ	8	10	4	22	3

○学校別教職員数（令和 5 年 5 月 1 日現在）

<小学校>

（単位：人）

区分 学校名	校長	教頭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	事務 職員	計
鳥羽	1	1	14	1	0	1	18
答志	1	1	6	1	1	1	11
神島	0	1	3	1	0	1	6
菅島	1	1	4	1	1	1	9
加茂	1	1	9	1	0	1	13
安楽島	1	1	15	1	0	1	19
弘道	1	1	5	1	0	1	9
計	6	7	56	7	2	7	85

<中学校>

（単位：人）

区分 学校名	校長	教頭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	事務 職員	計
鳥羽東	1	1	18	1	1	1	23
答志	1	1	6	1	0	1	10
神島	1	1	5	0	0	0	7
加茂	1	1	7	1	0	1	11
計	4	4	36	3	1	3	51

<幼稚園>

（単位：人）

区分 幼稚園名	園長	教諭	計
かもめ	1	4	5

③ 新しい学習課題への取組

④ 誰一人取り残さない学びの保障

小学校教育振興事業 (旧 小学校教育振興事業)	令和 5 年度決算額	6,830 千円	(前年度決算額)	6,042 千円
中学校教育振興事業 (旧 中学校教育振興事業)	令和 5 年度決算額	5,933 千円	(前年度決算額)	5,993 千円
小学校 ICT 教育推進事業 (旧高度情報通信システム利用教育事業)	令和 5 年度決算額	4,156 千円	(前年度決算額)	4,256 千円
中学校 ICT 教育推進事業 (旧 コンピュータ教育事業)	令和 5 年度決算額	2,438 千円	(前年度決算額)	2,971 千円
教職員研修事業 (小学校)	令和 5 年度決算額	480 千円	(前年度決算額)	70 千円
教職員研修事業 (中学校)	令和 5 年度決算額	260 千円	(前年度決算額)	240 千円

各小・中学校に必要な各種教材備品の購入をはじめ、公立学校情報機器整備費補助金を活用し、GIGA スクール構想に伴う児童・生徒に 1 台ずつタブレット端末を購入したほか、関連する ICT 機器の購入や通信ネットワーク環境の整備、タブレット端末管理に係るサポート業務の契約など、ICT 教育環境の整備を図りました。

〔 教職員研修事業 〕

鳥羽志摩教育研究会や市教育研究推進校への補助を通して、教職員の資質の向上を図りました。

また、各校からの授業研究に係る指導主事への派遣要請を受け要請訪問を実施し、授業に対しての指導及び助言を行いました。

- 令和 5 年度 鳥羽市教育研究推進校 : 安楽島小学校
- 研究主題 : 『学びあい、自らを表現し、なかまとつながる』
- 令和 5 年度 指導主事 要請訪問回数 : 30 回 (小学校 7 校延べ数)
11 回 (中学校 4 校延べ数)

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
各学級のICT活用授業時間数	1 時間／1 日	2 時間以上／1 日	3 時間以上／1 日

【自己評価と今後の取組】

成果指標としている全国学力・学習状況調査の児童生徒アンケートと鳥羽市独自のアンケート調査結果を実績値として活用したことにより、計画目標値と比較しました。言語活動については、学級の友だちとの間で話し合う活動を「よく行っている・行っている」と肯定的に回答している小学生が 92.0%、中学生が 95.7%であるので、今後さらに活動の充実を目指すこととします。

めあて・ねらいについては、「めあて」について「よく行った」は小学校は 99.0%、中学校は 97.8%、「振り返る活動」については小学校は 86.0%、中学校は 98.9%となっています。かなり高い数値となっており、小中学校とも定着してきました。これは、指導主事要請訪問時の教員への指導・助言の成果であると考えています。来年度は適用問題を取り入れ、児童生徒の学力の定着について指導・助言を行いたいと考えています。

「授業内容がよく分かりますか」については、「よくあてはまる」という回答は、小学校で 43.3%、中学校で 28.6%となっており、目標数値とは開きがありますが、「あてはまる」を含めた肯定的な回答は 80.0%以上となっています。今後は、より分かりやすい授業を充実させていくために、児童生徒が興味・関心を持つ課題を設定し、積極的に参加できるよう、学力向上委員会等をとおして、授業改善に努めます。

授業や家庭学習におけるタブレット端末の使用が日常化しました。全国学力・学習状況調査の児童生徒アンケートからも、児童生徒のタブレット端末の使用頻度が高いことがわかります。また、保護者の要望もあり、欠席者や不登校児童生徒のために、授業のライブ配信や録画配信を行う学校が出てきました。今後も、すべての学校において保護者や児童生徒の要望に応じた ICT 教育の取り組みを推進していきます。

学習ボランティアについては、「三重県教育委員会事務局の大学生等の教育アシスタント活用事業」を活用しました。コロナ前のように人数は集まりませんでしたが、大学生が子どもたちに丁寧に教える姿がありました。今後も、鳥羽市独自の学習サポーターや学習ボランティアの配置を目指し、授業等でのきめ細かな指導に努め、児童生徒一人ひとりの学力向上を図っていきます。

成果指標に対して計画目標値を達成することはできませんでしたが、今後も『確かな学力』（「基礎的な知識・技能」「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力」「学習に取り組む意欲」）の向上をめざし、指導方法や学力向上のための取組の結果を検証・評価し、指導方法及び取組の改善を図ります。今、社会においては、問題を解決する力、困難を乗り越える力、コミュニケーション力といった、変化の激しい時代を生き抜くための力が求められています。このため、「基礎的・基本的な知識・技能」に加え、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力等」、さらには「主体的に学習に取り組む態度(学びに向かう力)」を学力の重要な3要素ととらえ、その育成を図ります。特に「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること・

できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の視点から必要な資質・能力を身につけられるよう、「どのように学ぶか」を重視した授業実践を指導主事の要請訪問等により支援していきます。

【委員からの意見等】

＜委員 A＞

■多くの事業が展開されていることは理解できるが、全国学力・学習状況調査の正答率の向上に結びついていない。また、授業内容を「よくわかる」と回答する児童生徒の割合も、増加の傾向は認められるものの、目標とする値には大きく届いていない。教育委員会として現行の施策を検証し、学校現場を支援するより実効的な施策を立案することを求める。

＜委員 B＞

■全国学力・学習状況調査のアンケートで、「めあて」「振り返り活動」の数値が小中とも維持されたことは、鳥羽市の小中学校あがての一体的な意識改革が継続的にできていたということで評価できる。ただ、教育委員会の自己評価にもあるように、学力の定着という観点である「正答率」については、中学校で前年度より8.4ポイント減少しており、令和7年度の数値目標とはまだまだ開きがある。一層の効果的な指導主事を中心とした指導、助言を期待したい。

■複式学級授業の先進自治体として、その取り組みは過疎化が進行し、複式学級が増加している他の市町、学校の貴重かつ価値ある実践である。他の市町との交流を図り、一層子どもたちへのフィードバックを期待したい。

■昨年度、大きく数値をあげた、友だちとの間での話し合う活動の「よく行っている・行っている」との回答が、さらに小学校で5.6ポイント、中学校で14.1ポイント上昇したことは、教師、子ども達もその活用スキルを身に付け、タブレットによる学習が定着したことによるものであろう。ただ、それは「ノートに筆記用具で字を書く」という勉強、作業の乖離が進んでいるという一面があり、特に低学年においては危惧されるところである。バランスに留意すべきである。

（２）英語教育を通してコミュニケーション能力を育てる教育

- ① 新しい学習課題への取組
- ② 英語を用いたコミュニケーション活動の推進
- ③ 小中で一貫した英語教育のための研修の実施
- ④ 鳥羽ならではの授業スタイルの構築

【主な取組と成果】

- ① 新しい学習課題への取組

外国語教育推進事業

(旧 英語検定チャレンジ事業)

令和5年度決算額	15,438 千円	(前年度決算額)	12,403 千円
----------	-----------	----------	-----------

児童・生徒の英語への興味、関心を引き出し、積極的に英語でコミュニケーションを図る力を育むため、小・中学校にて、公費による英検 Jr と英検に挑戦しました。

○ 英検 Jr 小学校6年生 101人

○ 英検 中学校1年生 77人 中学校2年生 104人 中学校3年生 53人

② 英語を用いたコミュニケーション活動の推進

外国語教育推進事業

(旧 外国人英語指導業務委託事業)

令和5年度決算額	15,438 千円	(前年度決算額)	12,403 千円
----------	-----------	----------	-----------

幼稚園及び小・中学校にALT（外国人英語指導助手）3人を派遣し、外国語指導の補助や子どもたちとの触れ合いを通して、園児や児童・生徒のコミュニケーション能力の向上と国際感覚の育成を図りました。

また、加茂小学校の6年生を対象に、英会話で一日を過ごす「イングリッシュデイ」を鳥羽ロータリークラブと共催しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和5年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
中学3年生の英検3級以上合格率	37.1 %	45.7 %	60.0 %

③ 小中で一貫した英語教育のための研修の実施

④ 鳥羽ならではの授業スタイルの構築

【自己評価と今後の取組み】

- 令和3年度からALT（外国人英語指導助手）を3人配置することで、英語と触れ合う時間が増えています。
- 児童、生徒の学習到達度に応じた「個別最適」の学びを実現するために、英語科では、AI機能付き学習端末（学習アプリ）を導入し、朝の学習時間や、家庭学習を使用した短時間で効率の良い学習ができ、児童、生徒の学習の進捗状況が一目でわかるなど、良い効果がありました。今後は、日常の学習に関連させ、児童生徒が自主的に学習できるよう取り組みを進めるとともに、より効果が発揮できるように研修を進めます。

【委員からの意見等】

＜委員Ａ＞

- 英語教育を通じたコミュニケーション能力の育成について、児童生徒に提供する教育内容が充実しつつあることが分かる。しかしながら、成果指標である中学３年生の英検３級以上合格率は目標値に届いていないので、さらなる取組の推進が求められる。

＜委員Ｂ＞

- 厳しい財政事情の中、外国人英語指導助手の３人体制を維持できたことは、園児、児童、生徒の英語コミュニケーション能力の育成に必ず役立つと思われる。鳥羽市教育委員会の英語教育への積極性を、今後も継続してもらいたい。

【施策2】子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進

(1) 自尊感情と郷土愛を育む教育

- ① 「人権感覚あふれる学校づくり」の推進と人権教育・学習の充実
- ② 系統性を持った人権教育の取組
- ③ 地域の魅力を伝える教育
- ④ 郷土の良さを紹介できる子どもの育成
- ⑤ 地域の環境や人材を活かした体験活動の推進
- ⑥ 食材を通して地域の良さを再確認し郷土愛を育む食育

【主な取組と成果】

- ① 「人権感覚あふれる学校づくり」の推進と人権教育・学習の充実
- ② 系統性を持った人権教育の取組

教育振興事業

(旧 学校人権教育事業)

令和5年度決算額	4,079 千円	(前年度決算額)	2,927 千円
----------	----------	----------	----------

鳥羽市人権フォーラム担当者を中心に、各小・中学校における人権教育を推進するため「鳥羽市人権フォーラム」を開催しました。

人権フォーラムでは、児童・生徒による取組みについて、発表や意見交換を行うことで、人権問題を再認識し、感性を高めることができました。

○ 人権フォーラム参加児童・生徒人数 小学生 30 人 (7 校) 中学生 20 人 (4 校)

- ③ 地域の魅力を伝える教育
- ④ 郷土の良さを紹介できる子どもの育成
- ⑤ 地域の環境や人材を活かした体験活動の推進

人材育成講座「地球塾」事業

令和5年度決算額	1,423 千円	(前年度決算額)	348 千円
----------	----------	----------	--------

地球塾事業は21期目を迎え「鳥羽の海の歴史文化を学ぶ」をテーマに5回の講座に加え、特別講座としてインバウンドをテーマにした講座を実施しました。

市内小学4年生から6年生までを対象に実施している「とばっこ検定」については、4・6年生の検定はオンライン形式で、5年生は海の博物館でウォークラリー形式で行い、全

員合格を果たしました。また、市内中学校を対象にした「とばっこ探偵団英語版」を作成しました。

⑥ 食材を通して地域の良さを再確認し郷土愛を育む食育

学校給食運営事業	令和5年度決算額	97,109 千円	(前年度決算額)	31,189 千円
学校給食運営事業（中央調理場）	令和5年度決算額	97,109 千円	(前年度決算額)	65,861 千円

学校給食法に基づき、児童・生徒の心身の健全な発達を目的として、栄養バランスのとれた学校給食を提供し、食生活全般を通じた食育の推進を図りました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和5年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
とばっこ検定合格率	100 %	100 %	100 %
鳥羽市の食材（農水産物等）使用率	27.5 %	10.4%	30.0 %

【自己評価と今後の取組み】

- ・小・中学校人権フォーラムを開催し、児童生徒が自分の思いを伝え、友だちの思いを聞き、考えを深める取り組みを進めました。
- ・島っ子ガイドをはじめ、各小中学校において地域を学び、発信する取り組みを進めています。今後は、全ての小学校にコミュニティ・スクールディレクターを配置し、ゲストティーチャーやボランティアにかかる人材バンクの作成、児童生徒の見守り活動、避難所運営訓練の実施など、地域と学校が連携した取り組みを進めていきます。
- ・地元食材を活用した「鳥羽が好きふるさと給食」で、自然の豊かさと生産者の思いを学ぶ食育の授業を行いました。今後も食材を通して地域の良さを再認識し、郷土愛を育む食育を進めます。
- ・とばっこ検定は、3学年で実施を始めて4年目を迎えました。今年度もオンライン形式を一部導入し、円滑に実施することができていると感じています。

【委員からの意見等】

<委員A>

- 人権フォーラム、地球塾ともに実施を重ねて定着したものとなり、自尊感情や郷土愛を育むことに貢献している。とばっこ検定ならびにとばっこ探偵団についても同様に息の長い活動になることを望む。

＜委員B＞

■コミュニティ・スクールディレクターの存在は、各学校の状況に応じて、それぞれが地域を熟知しているが故に意義は深い。今後も学校運営協議会構成委員でさらに伸び行くことを期待するとともに、小中合同という新しい形にも昇華され、教員だけでは気づけなかった地域人材の発掘を一層進めてもらうことで、小中連携、系統した子どもたちの郷土愛の育みにつながればと思う。

（２）環境問題や農水産業を柱とした海洋教育

① 海洋教育の推進

【主な取組と成果】

海洋教育推進事業

令和５年度決算額

497 千円

（前年度決算額）

467 千円

海に関する校外学習や郷土学習について海洋教育のカリキュラム化を行い、小中学校に周知しました。鳥羽市内の海に関する学習拠点や研究拠点、生産拠点を活用した学びを進めていくため、関係機関への訪問や海環境体験、学芸員を招いての出前事業等を実施し、海洋教育の推進を図りました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和５年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
海洋教育（郷土教育）のカリキュラム化	小学校4～6年 100%	幼小中全学年 100%	幼小中全学年 100%

【自己評価と今後の取組み】

- ・市内外の有識者や海に関する関係機関と海洋教育推進委員会を組織し、各関係機関が作成したカリキュラムをもとに市内小中学において学びを進めました。カリキュラムについては、今後も実践を積み重ねながら、より良いものへと改良していきます。
- ・持続可能な海洋教育の推進を図るため、市内にある海に関する学習拠点や研究拠点、生産拠点を活用した学びを進めます。
- ・海洋教育に関する課題を共有し、グローバルな視点で学ぶ機会を創出するため、パラオ共和国に中学生を派遣します。

【委員からの意見等】

＜委員 A＞

- 海洋教育プログラムは、他の市町村と比較しても独自の取組として充実している。成果指標を海洋教育のカリキュラム化に置いているが、既に達成されているので、今後に向けて新たな指標を検討することが必要となる。

＜委員 B＞

- カリキュラムを作りっぱなしではなく、より現場のニーズに合致した改善、改良を加えていくことは大切なことであるので、今後もぜひ継続してもらいたい。
- 海洋教育を市の全学校が独自の海に関する学びに取り組むことは、鳥羽市に住み続ける子どもたちのアイデンティティにつながるものとして評価できる。

【施策3】多様な個性を認め合う豊かな心と健やかな体を育てる

(1) 多様性やグローバル化へ対応した教育

- ① 人権教育・学習の充実
- ② 道徳教育の推進
- ③ 多文化共生教育の推進
- ④ 安全安心でおいしい給食の提供

【主な取組と成果】

- ① 人権教育・学習の充実
- ② 道徳教育の推進

教育振興事業

(旧 学校人権教育事業)

令和5年度決算額	4,079 千円	(前年度決算額)	2,927 千円
----------	----------	----------	----------

鳥羽市人権フォーラム担当者を中心に、各小・中学校における人権教育の推進を行い、鳥羽市人権フォーラムを開催しました。

人権教育推進事業

令和5年度決算額	2,189 千円	(前年度決算額)	2,532 千円
----------	----------	----------	----------

園児、児童、生徒、保護者を対象とし、インターネット上の人権に関すること、性の多様性に関すること、身近にある偏見や決めつけに関すること、いじめや差別に関すること、障がい者の人権に関することなど、現代社会における様々な人権課題について学ぶ機会を創出しました。

○ 講演会・学習会 開催回数 9回 参加者数 772人

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和5年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査での「自分にはよいところがある」(自尊感情)と答えた割合(肯定的な回答の割合)	小学校 74.0% 中学校 70.9%	小学校 83.5% 中学校 79.6%	小学校 85.0% 中学校 80.0%

③ 多文化共生教育の推進

外国語教育推進事業

(旧 外国人英語指導業務委託事業)

令和5年度決算額	15,438 千円	(前年度決算額)	12,403 千円
----------	-----------	----------	-----------

かもめ幼稚園及び市内小・中学校にALT（外国人英語指導助手）3人を派遣し、外国語指導の補助や子どもたちとの触れ合いを通して、園児や児童・生徒のコミュニケーション能力の向上と国際感覚の育成を図りました。

④ 安全安心でおいしい給食の提供

学校給食運営事業

令和5年度決算額	97,109 千円	(前年度決算額)	31,189 千円
----------	-----------	----------	-----------

学校給食運営事業（中央調理場）

令和5年度決算額	97,109 千円	(前年度決算額)	65,861 千円
----------	-----------	----------	-----------

学校給食法に基づき、児童生徒の心身の健全な発達を目的とした栄養バランスのとれた学校給食を提供し、食育の推進を図りました。

【自己評価と今後の取組み】

- ・自己肯定感を高めることは、どの学校でも課題となっています。これまでも取り組んできましたが、子どもたち一人ひとりと教師が繋がり、教師が授業や学校生活を通じて児童・生徒同士をつなげていく取組を続けていきます。
- ・地元でとれる新鮮な旬の食材を給食に活用することで「自然豊かな鳥羽」の再認識と郷土愛を育む「鳥羽が好きふるさと給食」を継続していきます。

【委員からの意見等】

<委員A>

- 全国学力・学習状況調査結果からは自尊感情に肯定的な回答を示す者の割合が目標値に近づきつつあることが分かる。学校やその他機関での活動を教育委員会として支援することを継続していただきたい。

<委員B>

- 昨年度に比べて、全国学力・学習状況調査での「自尊感情」の項目の数値が、小学校で微増、中学校で約5ポイント減少した。令和7年度の目標値に近づけるよう、各取組を有機的に関連付けてもらいたい。

（２）個に応じた支援を通して誰一人取り残さない教育

- ① 特別支援教育の充実
- ② 不適応・不登校児童生徒への支援の推進
- ③ 学びのセーフティネットの構築

【主な取組と成果】

① 特別支援教育の充実

教育支援事業

（旧 特別支援教育体制整備事業）

令和５年度決算額	16,608 千円	（前年度決算額）	3,032 千円
----------	-----------	----------	----------

障がいのある児童・生徒への特別支援教育を総合的に推進するため、専門的知識や経験を有する巡回相談員を派遣しました。

特別支援教育就学対策事業（小）

令和５年度決算額	900 千円	（前年度決算額）	846 千円
----------	--------	----------	--------

特別支援教育就学対策事業（中）

令和５年度決算額	219 千円	（前年度決算額）	185 千円
----------	--------	----------	--------

心身に障がいのある児童の適切な就学を図るため、関係機関との連携及び特別支援学級、通級指導教室設置校の機能の充実を図りました。

教育支援事業

（旧 心身障がい児就学指導事業）

令和５年度決算額	16,608 千円	（前年度決算額）	3,032 千円
----------	-----------	----------	----------

小・中学校に入学予定で、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の保護者に適切な就学指導をするため、鳥羽市就学指導委員会（医師、教員、保育士などで構成）を年間11回開催しました。

② 不適応・不登校児童生徒への支援の推進

教育支援事業

（旧 教育支援センター事業）

令和５年度決算額	16,608 千円	（前年度決算額）	3,032 千円
----------	-----------	----------	----------

様々な理由で不登校となるなど、学校生活に悩みをもつ児童・生徒の実態に即した指導や支援を行いました。

児童・生徒の自立支援を行うため、教育支援センター（HARP）に専任指導員

1 人と会計年度任用職員 1 人を配置し、通級してくる児童・生徒へ生活指導や学習支援などを行いました。

また、学校への定期的な訪問や、集団への不適応・不登校傾向にある児童・生徒に支援を行いました。

教育支援事業 (旧 児童生徒支援事業)	令和 5 年度決算額	16,608 千円	(前年度決算額)	3,032 千円
------------------------	------------	-----------	----------	----------

子どもたちが、心にゆとりをもって、学校生活が送れるよう、気軽に悩みなどを相談できる「心の教室相談員」を学校と教育支援センターHARP に 3 名配置しました。

授業や休み時間など、様々な状況で子どもたちの様子を観察し、積極的に子どもたちと会話することで、心の安定に努めることができました。

○ 心の教室相談員配置校：鳥羽東中、教育支援センターHARP・ながおか教室

③ 学びのセーフティネットの構築

就学援助事業（小学校費）	令和 5 年度決算額	5,682 千円	(前年度決算額)	5,330 千円
就学援助事業（中学校費）	令和 5 年度決算額	6,788 千円	(前年度決算額)	7,158 千円
高校生修学支援事業	令和 5 年度決算額	3,409 千円	(前年度決算額)	3,489 千円

経済的理由により、就学することに支障をきたしている児童・生徒の保護者に対して、就学に係る必要な経費を扶助するなど、経済的援助を行いました。

また、地理的条件などで、遠距離通学をしている生徒の保護者に対しても、通学費を補助するなど、経済的負担の軽減を図りました。

子育て支援および教育における経済的負担の軽減を図ることを目的に、離島高校生への通学費及び下宿費の一部を補助しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
特別な支援を必要とする通常学級在籍児童・生徒の個別指導計画作成の割合	62.9 %	100.0 %	100 %

【自己評価と今後の取組み】

- ・特別な支援を必要とする子どもたちの自立と社会参画に必要となる力の育成に向け、一人ひとりの状況に応じた合理的配慮の提供及び学びを支援するため、子育て支援室など関係機関と連携した途切れのない支援を進めました。
- ・不適応、不登校傾向の児童生徒に対し教育支援センターHARPに専任指導員1人と会計年度任用職員1人を配置し、通級してくる児童・生徒へ生活指導や学習支援、保護者からの教育相談など行いました。
- ・経済的な理由により、就学に支障をきたすことのないよう必要な経費について扶助を行いました。
- ・今後も様々な理由により支援が必要な児童生徒に向けて、一人ひとりの状況に応じた合理的な配慮の提供と学びの支援を行います。

【委員からの意見等】

<委員A>

- 特別支援教育について成果指標を達成していること、不適応・不登校児童生徒への支援としてのHARPの活動、そして、地理的・経済的理由による困難に対する修学支援・教育扶助等、教育委員会として実施した諸点については適切であったと評価することができる。引き続き、困難を抱える家庭、子どもの発見と支援に努めていただきたい。

<委員B>

- 個別の支援・対応を必要とする児童・生徒の割合が、年々増加している。この現状を鑑み就学指導委員会や教育支援センター等の関係機関との情報共有、連携、支援を丁寧に遂行し、様々なニーズに対応できるように教育の継続をしてもらいたい。

(3) 健康や体力の向上に視点を当てた教育

- ① 豊かな心と健やかな体を育てる
- ② コーディネーショントレーニングの推進
- ③ 学校部活動の在り方についての検討

【主な取組と成果】

- ① 豊かな心と健やかな体を育てる

小学校教育振興事業
(旧 学校音楽祭事業〈小〉)

令和5年度決算額	6,830 千円	(前年度決算額)	6,042 千円
----------	----------	----------	----------

中学校教育振興事業
(旧 学校音楽祭事業〈中〉)

令和5年度決算額	5,933 千円	(前年度決算額)	5,993 千円
----------	----------	----------	----------

市内の小中学校が一堂に会し活動の成果を発表する学校音楽祭の開催や修学旅行等の校外学習における各種補助を行い、学習環境の充実に努めました。

学校図書館整備事業

令和5年度決算額	4,753 千円	(前年度決算額)	4,664 千円
----------	----------	----------	----------

小・中学校の学校図書館に司書を派遣し、児童・生徒が本と親しめるコーナーの設置やイベントを開催しました。また、図書担当教員への指導や助言、図書館を活用した授業を推進するなど、子どもたちの文章力や読解力の向上に努めました。

活力ある学校づくり推進事業（小学校費）

令和5年度決算額	1,454 千円	(前年度決算額)	1,364 千円
----------	----------	----------	----------

活力ある学校づくり推進事業（中学校費）

令和5年度決算額	1,092 千円	(前年度決算額)	1,096 千円
----------	----------	----------	----------

特色ある学校活動を実践することで、児童の活力を引き出す学校づくりを推進しました。各学校において、校外学習や地域に開かれた学校づくりの取り組みを行い、体験を通して学ぶ児童・生徒活動を推進しました。

○ 令和5年度各校の主な活動内容

＜小学校＞

- ・鳥羽小学校 海洋教育推進事業、地域文化推進事業、児童会活動推進事業など
- ・答志小学校 ひらめの稚魚放流学習、海の子フェスタと防災集会事業など
- ・神島小学校 神島っ子ガイド事業、島っ子太鼓継承活動、学校間交流など
- ・菅島小学校 島っ子ガイド推進事業、美化活動、漁業体験など
- ・加茂小学校 地域産業体験学習（稲作体験学習、畑作体験学習）、海洋教育推進事業など
- ・安楽島小学校 陸上競技体験学習、水耕栽培学習、かき養殖体験学習など
- ・弘道小学校 地域ふるさと学習、干物・お刺身づくり体験、学校間交流など

＜中学校＞

- ・鳥羽東中学校 自主自立推進事業、文化構築事業、人権感覚育成事業など
- ・答志中学校 わかめ養殖体験学習、出会い学習（人権学習）、文化活動推進事業など

- ・神島中学校 和楽器体験、学校間交流事業、地域交流事業、花いっぱい運動など
- ・加茂中学校 安全教育推進事業、文化活動奨励事業、キャリア教育推進事業など

② コーディネーショントレーニングの推進

生涯スポーツ振興事業	令和 5 年度決算額	5,910 千円	(前年度決算額)	5,479 千円
------------	------------	----------	----------	----------

前年度に引き続き、加茂小学校でコーディネーショントレーニングのモデル事業を実施したほか、鳥羽市小学校体育研究会と連携し、講習会を実施しました。

※ コーディネーショントレーニング・・・脳と体幹に刺激を与えることで、運動の器用さを高めるとともに、その土台となる運動学習能力を養うトレーニング

項 目	回数 (回)	参加者延べ人数 (人)
コーディネーショントレーニング	10 回	教 員 12 人 1.2 年生 34 人 3.4 年生 35 人 5.6 年生 34 人

③ 学校部活動の在り方についての検討

中学校管理業務	令和 5 年度決算額	8,873 千円	(前年度決算額)	10,366 千円
---------	------------	----------	----------	-----------

鳥羽東中学校に専門知識を有した部活動指導員を 5 名配置し、部活動の技術的な指導や大会への引率を行い、教職員の部活動以外に必要な生徒指導等の時間確保に努めました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
園児の図書年間貸出冊数 (一人当たり)	65.0 冊	40.0 冊	70.0 冊
児童の学校図書年間貸出冊数 (一人当たり)	46.6 冊	32.6 冊	50.0 冊
生徒の学校図書年間貸出冊数 (一人当たり)	4.7 冊	3.7 冊	10.0 冊
コーディネーショントレーニングに取り組む学校の割合	92.3 %	90.9 %	100.0%

【自己評価と今後の取組み】

- ・鳥羽東中学校へ部活動指導員（フェンシング部・剣道部・女子バレー部・女子バスケット部・文化部）の配置を行い、教職員の時間外労働の縮減と生徒への専門的な指導を行いました。次年度以降も継続した取組みを行います。

【委員からの意見等】

＜委員Ａ＞

- 各学校で実施される文化的活動、スポーツ活動（部活動）については特色ある内容が展開されており、また、教育委員会から各学校への支援の様子も窺うことができる。しかしながら、学校図書室における図書の貸し出し冊数が低調に推移している。成果指標の見直しを含めた検討が求められるように思われる。

＜委員Ｂ＞

- 豊かな心を育てる活動として、小中学校で企画、運営していた市音楽祭活動ができたことは、学校の音楽を通して、子どもたち一人ひとりの自尊感情を高める活動に結びついていると思う。
- 読書は脳を鍛えるためのツールとして重要なである。学校図書の年間貸出冊数について、園児では－３０冊、児童では－約２８冊と大幅な減少をしているにもかかわらず、自己評価や取組みになんらの言及がないのは、本気で令和７年度の目標値達成を目指しているのか疑問である。
- 部活動指導員の増加は、子どもたちの専門的な活動をより可能にした施策である。今後も可能な範囲で地域の人材の発掘に努め、積極的に指導員を登用してもらいたい。ただ、職員の時間外労働時間の縮減については、丁寧に検証する必要がある。

【施策4】地域・家庭とともにある園・学校づくり

(1) 地域とともに歩む園・学校の教育

- ① 「地域とともにある学校づくり」の推進
- ② 地域の特色を活かした学校運営協議会活動の推進

【主な取組と成果】

① 「地域とともにある学校づくり」の推進

教育振興事業

(旧 教育振興管理事業)

令和5年度決算額	4,079 千円	(前年度決算額)	2,927 千円
----------	----------	----------	----------

「地域とともにある学校づくり」の推進を図るため、前年度に引き続き、全ての小学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を設置し、3校（鳥羽小学校・加茂小学校・安楽島小学校）にコミュニティ・スクールディレクターを配置しました。

放課後子供教室推進事業

令和5年度決算額	2,095 千円	(前年度決算額)	2,096 千円
----------	----------	----------	----------

地域の参画を得ながら、主に水曜日に加茂小学校区の「かもっこ」、安楽島小学校区の「あらっこ」、鳥羽小学校区では学期末の早く下校する日に「とびっこ」放課後子ども教室を開催し、放課後の安全安心な居場所づくりに努めました。

青少年サポートセンター運営事業

令和5年度決算額	99 千円	(前年度決算額)	55 千円
----------	-------	----------	-------

青少年サポートセンターでは行政、学校、家庭、警察から推薦をいただいた58人を指導員として委嘱しました。小学校下校時間に合わせて青色パトロールを行い、子どもたちの安全・安心に努めました。

令和2年度より中止していた「赤崎まつり」や「みなとまつり」が4年ぶりの開催となったため、夜間合同パトロールを実施しました。

② 地域の特色を活かした学校運営協議会活動の推進

活力ある学校づくり推進事業

令和5年度決算額	1,454 千円	(前年度決算額)	1,364 千円
----------	----------	----------	----------

特色ある学校活動を実践することで、児童の活力を引き出す学校づくりを推進しました。

- ・鳥羽小学校 海洋教育推進事業、地域文化推進事業、児童会活動推進事業など
- ・答志小学校 ひらめの稚魚放流学習、海の子フェスタと防災集会事業など
- ・神島小学校 神島っ子ガイド事業、島っ子太鼓継承活動、学校間交流など
- ・菅島小学校 島っ子ガイド推進事業、美化活動、漁業体験など
- ・加茂小学校 地域産業体験学習（稲作体験学習等）、海洋教育推進事業など
- ・安楽島小学校 陸上競技体験学習、水耕栽培学習、かき養殖体験学習など
- ・弘道小学校 地域ふるさと学習、干物・お刺身づくり体験、学校間交流など

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
学校運営協議会設置小学校数	1 校	7 校	7 校
郷土学習をもとにしたガイド活動などの発信活動を実施した小学校数	2 校	3 校	7 校

【自己評価と今後の取組み】

- ・少子化に伴い、学校運営が成り立たなくなっていることから、すべての小学校にコミュニティ・スクールディレクターを配置し、地域の方々に学校運営に携わっていただきながら、教育活動を進めていく必要があります。
- ・地域の特色や体験学習などを行い、子どもたちが地域について学び発信することにより、地域の未来について考え行動する力を身につけ、持続可能なものにしていく取り組みを進めます。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■全小学校に学校運営協議会の設置されたことにより、地域と学校の連携・協働は制度的にも担保されることになることが見込まれる。郷土学習を充実させるためにも、学校運営協議会にて、地域に対する成果発表について協議することも一つの方法ではないかと思われる。

<委員 B>

■市内すべての小学校に「学校運営協議会」が設置され、その体制が整備されたと思う。今後は、それぞれの地区の特性を踏まえて「より地域に根差した学校」として、そこに住む方々の知識・経験・技能を活用できるシステムの発展に期待したい。

(2) 家庭・地域と連携した幼児教育

- ① 幼稚園における教育の充実
- ② 家庭・地域との連携の推進
- ③ 子どもの発達等の多様性に対応した教育の提供
- ④ 将来を見据えた公立幼稚園のあり方

【主な取組と成果】

① 幼稚園における教育の充実

幼稚園教諭の資質向上を目指し、2学期に「指導主事」等の要請訪問を行い、幼児教育で大切な5つの領域をねらった実践の充実を図りました。また、幼小中の連携として交流活動や相互の授業参観など実施しました。

幼稚園管理業務

令和5年度決算額	32,736 千円	(前年度決算額)	35,629 千円
----------	-----------	----------	-----------

② 家庭・地域との連携の推進

生活習慣チェックシートの活用や保健だよりを発行するなど、子どもたちの様子を家庭に伝え、家庭での様子を聞かせてもらう「対話的」な関わり合いができました。

③ 子どもの発達等の多様性に対応した教育の提供

「みえ発達障がい支援システムアドバイザー」との連携により、子どもの情報を共有することができました。また、3学期には小学校へ入学する子どもたちの情報を確実に共有するため、学校教員に引き継ぐ場を設けることができました。

④ 将来を見据えた公立幼稚園のあり方

幼稚園への入園希望者が減少傾向にある中、本市における幼児教育・保育の運営体制等に関して、早急に検討していく必要があります。現施設の安全性や保育所の動向等を踏まえながら、「鳥羽市子ども子育て会議」を始めとした関連機関に対して、積極的に投げかけていきます。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
家庭・地域と協働して実施した体験活動の回数	10回／年	17回／年	11回／年

【自己評価と今後の取組み】

- ・かもめ幼稚園の令和 5 年度の在園児数は、22 名と前年度と比べ 2 名の減少となりました。一方で預かり保育を希望する園児数は 20 名と割合が高く、共働き世帯の増加による保育ニーズの高まりが顕著なものとなっています。
- ・保育所を所管する子育て支援室との連携を深め、子育て世代からの幼児教育への要望などを的確に把握しながら、幼児教育・保育施設の適正配置と運営体制を検討していきます。
- ・特別な支援を要する就学前の子どもに関する情報を各校・園・所と共有し、鳥羽市就学指導委員会において、外部専門機関の助言等を踏まえ、個に応じた最適な学びが提供できるよう取り組んでいきます。また、今後も保幼小中の連携が確実に行われるよう働きかけを継続していきます。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■成果指標であるところの家庭・地域と協働して実施した体験活動の回数は目標値を上回っており、積極的に事業が展開されていることを窺うことができる。とはいえ、少子化を避けることが困難な状況において、今後の幼稚園の在り方について検討を深める必要があるように思われる。

<委員 B>

■市としての少子高齢化の進み方、特に出生数の激減は、鳥羽市の幼児教育・保育の運営体制の見直しは重要課題である。昨年度の自己評価にも、「幼児教育・保育施設の適正配置と運営体制を検討していく」とあるのに、今年度も全く同じ「自己評価と今後の取組み」の表記にとどまっているのは認識の甘さではないか。

(3) 安全・安心・快適な教育環境の整備

- ① 災害に強い学校づくり、人づくり
- ② 学校の適正規模・適正配置
- ③ 学校施設の長寿命化の推進

- ④ 学校、幼稚園施設の機能向上
- ⑤ ICT の基盤整備と利活用の促進
- ⑥ 学校における働き方改革の推進

【主な取組と成果】

① 災害に強い学校づくり、人づくり

学校安全総合支援事業	令和 5 年度決算額	949 千円	(前年度決算額)	1,358 千円
------------	------------	--------	----------	----------

各小中学校においては、「鳥羽市防災・減災プラン集 明日へのつばさ」を活用し、授業実践を行ったほか、E S D の視点に立った防災・減災教育について、有識者を招き、教育関係者に向けた講演会を開催しました。

また、防災リーダー的役割を果たす教員を養成するため、東日本大震災被災地を視察し、防災・減災教育を推進しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
地震や津波など災害時に自身がとるべき行動や避難場所ができている児童・生徒の割合	—	100 %	100 %

② 学校の適正規模・適正配置

令和 3 年 2 月に策定した「鳥羽市小中学校統合計画」（令和 3 年度～令和 12 年度）では、小学校の適正配置となる学校数は 7 校で、中学校の適正配置となる学校数は 2 校と示しています。

令和 8 年 4 月の「加茂中学校」と「鳥羽東中学校」との学校統合再編による新中学校設立を見据え、令和 6 年度から令和 7 年度までの 2 ヶ年に限り「学校選択制」を採用することとなったため、それぞれの中学校の対応を確立するため、説明会の開催や意向調査を実施しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
市内小中学校数	小学校 8 校 中学校 5 校	小学校 7 校 中学校 4 校	小学校 7 校 中学校 2 校

③ 学校施設の長寿命化の推進

中学校管理業務

令和 5 年度決算額	63,656 千円	(前年度決算額)	76,216 千円
------------	-----------	----------	-----------

「鳥羽市教育施設等長寿命化計画」に基づきながら、令和 8 年 4 月の新中学校の設立を見据え、学校運営の拠点となる現「鳥羽東中学校」校舎の大規模改修工事に着手しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
長寿命化に向けた施設改修の実施施設数	—	小学校 0校 中学校 1校	小学校 1校 中学校 1校

④ 学校、幼稚園施設の機能向上

小学校管理業務

令和 5 年度決算額	92,318 千円	(前年度決算額)	91,603 千円
------------	-----------	----------	-----------

中学校管理業務

令和 5 年度決算額	63,655 千円	(前年度決算額)	76,216 千円
------------	-----------	----------	-----------

鳥羽東中学校大規模改修事業

令和 5 年度決算額	164,934 千円	(前年度決算額)	0 千円
------------	------------	----------	------

幼稚園管理業務

令和 5 年度決算額	32,736 千円	(前年度決算額)	35,629 千円
------------	-----------	----------	-----------

小学校管理では、快適な施設利用を目指す「答志小学校屋外照明施設改修工事」のほか、学校敷地内の安全性の向上を図る「安楽島小学校敷地整備工事」などに着手しました。

中学校管理では、危険性及び緊急性を把握しながら、今年度から新たに「鳥羽東中学校大規模改修事業」に着手しました。

幼稚園管理では、規模の大きい工事等には着手しておりませんが、浄化槽や照明器具の改修に取り組みました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
小中学校、幼稚園における児童・生徒・園児用トイレの洋式化率	52%	57%	65%

⑤ ICT の基盤整備と利活用の促進

小学校 ICT 教育推進事業

(旧 高度情報通信システム利用教育事業)

令和 5 年度決算額	4,156 千円	(前年度決算額)	4,256 千円
------------	----------	----------	----------

中学校 ICT 教育推進事業

(旧 コンピュータ教育事業)

令和 5 年度決算額	2,438 千円	(前年度決算額)	2,971 千円
------------	----------	----------	----------

GIGA スクール構想における児童向け一人 1 台端末整備に伴う通信ネットワーク環境や端末管理に係るサポート業務契約などの ICT 教育環境を整備しました。

また、中学校ではタブレット端末用アプリを導入し、英語 4 技能のトレーニングを行い、効率的な英語学習を進めました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
校務支援システム導入校数	—	小学校 7校 中学校 4校	小学校 7校 中学校 2校

⑥ 学校における働き方改革の推進

「鳥羽市立学校における教育職員の在校時間の上限等に関する規則」および「鳥羽市立小中学校における教育職員の在校時間の上限等に関する方針」に基づき、教職員の業務負担の軽減を図り、限られた時間の中で授業の改善や子どもたちと向き合う時間の確保に努めました。

【自己評価と今後の取り組み】

- 令和 8 年 4 月の鳥羽東中学校と加茂中学校との学校統合再編を見据え、令和 6 年度から令和 7 年度までの 2 ヶ年に限り、加茂小学校区から「加茂中学校」または「鳥羽東中学校」のどちらかへの就学が可能となる「学校選択制」を採用することとしており、令和 6 年度は、加茂小学校の卒業生 19 名のうち 17 名が鳥羽東中学校に就学することになりました。
- 校務の ICT 化による教職員の負担軽減や業務効率化を図り、情報管理の一元化によるセキュリティ向上のため、令和 5 年度から校務支援システムが本稼働しました。
- 学校における働き方改革の推進では、ICT 教育の推進、スクールサポートスタッフの活用、部活動ガイドラインの遵守等により、令和 4 年度より時間外勤務時間数が小学校で年間平均 2.8 時間、中学校で 2.0 時間の減少となりました。今後、さらに ICT 教育環境の整備、効果的な人的配置、教職員の意識改革を進め、総勤務時間縮減に取り組んでいきます。

【委員からの意見等】

＜委員Ａ＞

- 学校の施設設備については、教育委員会として計画的に整備している。また、中学校の統合に向けた学校選択制の導入も、政策的に適切であったと評価することができる。

＜委員Ｂ＞

- 学校の適正規模、適正配置について、令和６年度の統合を地域の実情、登校道路の実態を考え、２年間先送りした柔軟さはよかったと思うが、加茂中の生徒の激減で、快適な教育環境としてはどうなのか、加茂中に進学する児童、家庭との丁寧な対話の必要性を感じている。
- 各学校が取り組んでいる「防災・減災」教育の推進にとって「鳥羽市防災・減災プラン集 明日へのつばさ」は有意義である。活用のマンネリ・硬直化を防ぐために、教員を東日本大震災被災地の視察に派遣し、各学校にフィードバックできたのは意義のあることであった。
- 働き方改革に取り組んで久しくなっている。部活動ガイドラインの導入、さらに管理職をはじめ、ミドルリーダー等の意識も変革できてきた。今後も教職員の心身の健康の視点に立ち、実際の勤務実態との整合も点検してもらいたいと思う。

【施策 5】生涯学習やスポーツの推進

(1) 社会教育施設の充実と活用

- ① 鳥羽市立図書館の充実
- ② 文化財の展示収蔵施設の整備・活用
- ③ 公民館やコミュニティアリーナの活用

【主な取組と成果】

① 鳥羽市立図書館の充実

図書館運営事業

令和 5 年度決算額	38,069 千円	(前年度決算額)	35,531 千円
------------	-----------	----------	-----------

第 3 次子ども読書活動推進計画に基づいた小・中学校へのブックトークをはじめ、「赤ちゃん絵本の会」など、子どもの成長に応じて本に慣れ親しめるイベントのほか、新たな事業として、皇學館大学生と写真家の方の協力を得ながら夏休み工作教室「MyBox を作ろう」を開催しました。

施設設備の維持管理については、図書館情報システムを新しく更新しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
鳥羽市立図書館の来館者数	75,704 人	62,216 人	78,000 人

② 文化財の展示収蔵施設の整備・活用

文化財保存推進事業

令和 5 年度決算額	14,920 千円	(前年度決算額)	15,558 千円
------------	-----------	----------	-----------

文化財収蔵展示施設運営管理費

令和 5 年度決算額	3,781 千円	(前年度決算額)	2,799 千円
------------	----------	----------	----------

国登録有形文化財の旧鳥羽小学校校舎の外壁改修（東側）と屋上防水工事（中央部）を実施したほか、鳥羽城跡内の石垣修繕工事や除草作業、伊良子清白邸の栈橋解体及び板塀補強工事に着手しました。

展示施設の一つである「鳥羽大庄屋かどや」では、指定管理制度を活用した管理運営を実施しています。総入館者数は 4,993 人で、様々な文化教室やミニコンサートを開催したり、写真や書画などのアート作品展を行うなど、身近にアートに触れる機会を創出しています。

③ 公民館やコミュニティアリーナの活用

公民館維持管理事業	令和5年度決算額	27,892 千円	(前年度決算額)	8,501 千円
公民館活動推進事業	令和5年度決算額	464 千円	(前年度決算額)	464 千円
コミュニティアリーナ維持管理事業	令和5年度決算額	4,117 千円	(前年度決算額)	3,127 千円

現在、設置している市民文化系施設（集会施設）は、公民館分館 20 施設とコミュニティアリーナ 4 施設があります。

施設面では、老朽化が進行し、修繕に必要な経費は、年々増加傾向となっています。

中央公民館池上分館雨樋等修繕工事他 12 件の修繕を行うほか、中央公民館河内分館の合併浄化槽の新設及びトイレの洋式化、多目的トイレの設置、玄関のバリアフリーなど、施設の利便性の向上に努めました。

また、離島地域における地域・学校のスポーツ活動、生涯学習の活動拠点として、幅広く利用されているコミュニティアリーナの維持管理にかかるものとして、菅島コミュニティアリーナの緞帳開閉装置の修繕などに取り組みました。

【自己評価と今後の取組み】

- ・図書館では、コロナ禍で中止していた各種行事について、感染拡大前の状態に戻すよう努めるとともに、新たな行事を行い、サービスの充実を図りました。
- ・引き続き、環境の整備と資料の充実に努めます。
- ・文化財は旧鳥羽小学校を中心に市内の指定文化財等の保存事業を実施しました。今後も引き続き、旧鳥羽小学校の改修やその他文化財の維持管理、調査等を行います。
- ・地域の交流の場として、公民館やコミュニティアリーナの維持管理を行います。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■文化財や公民館等、ハードに対する維持や修繕は十分に実施された。一方、市立図書館への来館者数がコロナ前までの回復が見られない。様々な取り組みやイベントが実施されており、それらは十分に評価できるものの、来館者回復に向けた起爆剤的なイベントの実施を検討することも必要と思われる。

<委員 B>

■コロナ禍で各施設の活動中止していた各種行事を、元に戻すことは意義がある。これを契機に活動の視点、幅が広がるような創意工夫を期待したい。

(2) 感性を育むアートに親しむ創作機会や環境の創出

- ① アートに触れ合う
- ② 市民との交流の創出
- ③ 展示場・アトリエの整備

【主な取組と成果】

① アートに触れ合う

4年ぶりとなる「市民文化祭」を鳥羽市民体育館において開催しました。市内団体による音楽芸能の発表や美術作品の展示を行うことで、本市における多様な文化活動を推奨する機会となりました。

② 市民との交流の創出

生涯学習推進事業	令和5年度決算額	239 千円	(前年度決算額)	2,030 千円
----------	----------	--------	----------	----------

10月に行われた九鬼水軍楽市においてワークショップを開催し、芸術に親しむ機会を創出しました。

また、「20歳（ハタチ）の会」の開催では、20歳の9人の実行委員を中心に内容を企画・検討し、自主運営により祝典を進行し125人の参加をいただきました。

③ 展示場・アトリエの整備

博物館運営事業	令和5年度決算額	12,613 千円	(前年度決算額)	22,355 千円
---------	----------	-----------	----------	-----------

市立海の博物館の運営や活動方針について検討や協議を行うため、博物館に関係する関係者で組織する「鳥羽市立海の博物館運営協議会」を開催しました。

博物館では、特別展3回、ギャラリー展4回、企画展1回を開催したほか、海にまつわる体験学習などを行いました。また、現役海女さんによる教育旅行団体向けガイドを行うほか、市内小学5年生が海女検定で博物館へ訪れる際に、海女さんからお話を聞く機会を創出するなど海女に関する学習を深める機会を創出しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
アート関係のワークショップ参加者数	0 人	50 人	200 人

【自己評価と今後の取組み】

市内では海の博物館、大庄屋かどや、市民体育館等でワークショップや作品展示を行っており、アートに触れる機会の創出に取り組んでいます。引き続き、子どもたちや市民の方々に、モノづくりや文化芸術作品に接する機会を提供していきます。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■各社会教育施設においてアートに親しむ機会が提供されており、市民の学習体験のみならず、まちづくりへの寄与もあるように思われる。成果指標として挙げたアート関係のワークショップ参加者数が目標に未達であるため、ワークショップ企画の充実と広報の充実の両面を推進していただきたい。

<委員 B>

■昨年度「SNS 活用ワークショップ インスタグラマーから学ぼう!」といった楽しい企画で134人の参加となったが、今回ワークショップでは、84人の大幅減の50人の参加であった。しかし、「アートに親しむ創作機会」の創出として、自己評価が無記述となっている。確かな分析と自己評価があつてこそ、企画ものであるがゆえに、次年の「子どもたちや市民の方々に、モノづくりや文化芸術作品に接する機会の提供」につながるのではないか。

(3) 人財や文化財を活用した生涯学習

- ①生涯学習活動の充実
- ②地域人材の発掘・育成
- ③文化財の保存と活用の推進
- ④市の歴史文化遺産の語り部の育成

【主な取組と成果】

① 生涯学習活動の充実

現在、生涯学習講座は、運動施設指定管理者の委託事業として、書道教室やヨガ教室など17講座を開講し、延べ2,130人の参加がありました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
生涯学習講座から新たに立ち上がる自主活動の数	0 件	0 件	5 件

② 地域人材の発掘・育成

社会教育関係団体育成事業

令和 5 年度決算額	2,034 千円	(前年度決算額)	915 千円
------------	----------	----------	--------

社会教育活動の充実を図るため、関係団体の活動に対して補助金を交付し、青少年の健全育成や歴史文化活動を支援しました。助成団体の一つである「市文化協会」へは、市民文化祭を開催するための支援を行いました。「青少年育成市民会議」では、子ども達へ伝統文化に触れる機会を創出するため、みんなで凧作り教室、新春凧あげ大会を実施しました。

③ 文化財の保存と活用の推進

国登録有形文化財である旧鳥羽小学校校舎の外壁改修や屋上防水工事を実施したほか、伊良子清白の家への来訪者の安全を確保するため腐食した栈橋・板塀を撤去するなど、文化財の保存のための環境整備に努めました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 5 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
指定文化財の数	72 件	74 件	75 件

④ 市の歴史文化遺産の語り部の育成

人材育成を目的とした地球塾のほか、子どもたちの郷土愛醸成のため、とばっこ検定を実施しました。

【自己評価と今後の取組み】

生涯学習講座におきましては、指定管理者において多様な講座を実施しています。今後も指定管理者と協議を行い、より良い講座が実施できるように努めます。

【委員からの意見等】

＜委員Ａ＞

■「市民一人ひとりの学びの充実」から「市民同士での学びの充実」へと繋げていくことは重要な理念であり、政策目標に掲げることは理解できる。しかしながら、成果指標に挙げられる生涯学習講座から新たに立ち上がる自主活動が０件であることから、当該目標の達成には至っていないと指摘せざるを得ない。

＜委員Ｂ＞

■保存している文化財、指定された菅島灯台等の有効活用を期待したい。

（４）生きがいと活力を育む生涯スポーツの推進

- ① スポーツ活動に取り組める環境づくり
- ② 地域スポーツと学校部活動の連携
- ③ 運動と食事・栄養への取組
- ④ 表彰制度の拡充
- ⑤ ジュニアスポーツ応援事業
- ⑥ 三重とこわか国体の開催とレガシーの継承
- ⑦ スポーツ用具などの計画的な整備
- ⑧ 市民がつながる機会づくり

【主な取組と成果】

① スポーツ活動に取り組める環境づくり

生涯スポーツ振興事業	令和５年度決算額	5,910 千円	(前年度決算額)	5,479 千円
学校体育施設開放事業	令和５年度決算額	1,184 千円	(前年度決算額)	1,184 千円
学校体育振興事業	令和５年度決算額	3,312 千円	(前年度決算額)	2,730 千円

新型コロナウイルス感染症が５類に移行したこともあり、前年度と比べ、スポーツに親しむ機会が戻りつつありました。

そのような状況の中、全国大会に出場する選手が増加しました。

項 目	回数（回）	参加者延べ人数（人）
学校体育施設開放校数（校）	8 校	22,765 人

② 地域スポーツと学校部活動の連携

中学校の休日部活動の地域移行について、令和５年度から令和７年度の３年間で改革推進期間とされている中、鳥羽市部活動検討委員会を設置し、部活動の地域移行に向けたあり方や取組方策の検討を実施しました。

結果、鳥羽市の部活動地域移行における方針を定めた「中学生世代の新たな地域クラブ活動準備・推進計画」の策定に至りました。

③ 運動と食事・栄養への取組み

令和５年度は、当該取組の実施に至りませんでした。

④ 表彰制度の拡充

市民体育大会事業

令和５年度決算額	169 千円	（前年度決算額）	179 千円
----------	--------	----------	--------

市民体育大会の実績としては、前年度と比較し、開催された競技数は減少したものの、参加者数は増加しました。新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことにより活動が活発になったことが要因と考えられます。

また、全国・東海大会等で優秀な成績を収めた選手やスポーツ振興に功績のあったかたに表彰状等を授与するほか、その功績を「広報とば」に掲載しました。

項目	選手	団体
スポーツ優秀選手・団体表彰	17 人	2 チーム

⑤ ジュニアスポーツ応援事業

生涯スポーツ振興事業

令和５年度決算額	5,910 千円	（前年度決算額）	5,479 千円
----------	----------	----------	----------

フェンシング競技とレスリング競技に対して、ジュニアへの支援を継続しています。

各種大会や合同練習会などにも参加するほか、活躍する選手を招いての講習会を開催することで、技術や競技力の向上を図ることができました。

これからも、一流アスリートが誕生するよう、バックアップできる環境づくりに努めていきます。

⑥ 三重とこわか国体の開催とレガシーの継承

東京オリンピックで山田優選手が成し遂げた金メダル獲得を契機に、フェンシング競技の普及・発展と次世代フェンサーの育成を目的にフェンシングの全国大会を開催しました。

啓発イベントの開催・関係機関等の連携イベント

名称	参加人数	実施場所
鳥羽フェンシング大会	102 人	鳥羽市民体育館
チャンバラフェンシング	26 人	鳥羽市民体育館サブアリーナ

その他

名 称	実施場所	内 容
合宿の受け入れ	市民体育館	競技力の向上を目的に、中高生を対象とした強化合宿の受け入れ

⑦ スポーツ用具などの計画的な整備

運動施設管理運営事業

令和 5 年度決算額	40,916 千円	(前年度決算額)	37,466 千円
------------	-----------	----------	-----------

運動施設については、引き続き、三幸（株）を指定管理者とし、民間のノウハウやアイデアを活かしながら施設の管理運営を行いました。

また、フェンシング競技の普及に対する寄附金を活用したフェンシング審判器等の購入や、ふるさと創生基金を活用し、市民体育館及び武道館で利用するための備品を購入し、運動施設における設備の充実を図りました。

⑧ 市民がつながる機会づくり

地域活性化起業人推進事業

令和 5 年度決算額	2,860 千円	(前年度決算額)	5,633 千円
------------	----------	----------	----------

三大都市圏に所在する民間企業より社員を派遣してもらい、企業で培った知識や人脈、ノウハウを活用し、各課が抱える課題や事業に対して、先進事例や提案などを通して、課題解決に取り組みました。

地域活性化起業人からは以下 3 つの提案をいただきました。

- ① 健康増進につながる「オクトーバーラン&ウォーク」の開催
- ② 学校開放施設の利便性向上に係る施設予約システムの運用
- ③ 小中学校ホームページの効果的かつ効率的な運用

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和5年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
運動施設利用者数（市内在住者）	31,196 人	39,663 人	52,000 人
運動施設利用者数（市外からの利用）	1,717 人	11,992 人	3,000 人
総合型地域スポーツクラブ数	1 団体	2 団体	3 団体

【自己評価と今後の取組み】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、前年度に比べ、スポーツを楽しむ人が増加し、活気が戻りつつありました。具体的には、学校開放施設を利用し、スポーツを楽しむ方や、市民体育大会参加者の増加が挙げられます。

今後は、生涯スポーツ振興の観点から、子どもから高齢者までライフスタイルに応じてスポーツに親しめるような環境づくりを各種団体と連携・協力しながら取り組んでいきます。

また、中学校の休日部活動の地域移行について、鳥羽市の部活動地域移行における方針を定めた「中学生世代の新たな地域クラブ活動準備・推進計画」の策定に至りました。今後は、当該計画をもとに、部活動顧問や地域団体等と調整を進めながら、地域クラブ活動を推進していきます。

【委員からの意見等】

<委員A>

- スポーツ関連の施策は、十分に展開されていると評価することができる。中学校部活動の地域移行についても順次進行しているので、適切であると評価することができる。

<委員B>

- 市の独自性確立のための、ジュニアへの支援は有意義である。今後も、指定管理者である「三幸」には、成果目標値に近づけるべく、鳥羽市として連携、協力の必要性を感じた。

【その他の施策】

寝屋子の島留学事業

1 目 的

この制度は、鳥羽市立答志小学校・答志中学校に島外（市外）から入学又は転学を希望する児童・生徒（以下「児童」という）を島親が受け入れる島親留学、保護者と移住してくる家族留学、祖父母のもとで孫を預かる孫留学を実施し、豊かな自然の中で相互の教育効果の向上を図るとともに、教育の振興充実を期することを目的とする。

2 募集基準及び決定方法

この制度により受け入れる児童は次のとおりとし、受け入れ前に寝屋子の島留学実施委員会（以下、「実施委員会」という）が面談の上、決定する。

- (1) 地域の環境を理解し、就学を希望する児童。
- (2) 第二のふるさとを求め、答志島の大自然の中で豊かな思い出を作ろうとする児童。
- (3) 少人数教育でしっかり学び、学力を伸ばしたい児童。
- (4) 答志中学校区に通学したことがない児童。
- (5) 市外に住所を有する児童であって、家族留学及び孫留学は小学1年生から中学3年生まで、島親留学は小学5年生から中学2年生までとする。
- (6) 実施委員会が認めた場合。

平成30年	家族留学1名（小学1年生）
令和元年	家族留学1名（継続） 島親留学2名（小学6年生）
令和2年	家族留学3名（小学4年生、中学1年生、中学3年生） 島親留学1名（中学2年生）
令和3年	孫留学1名（中学1年生：7月から）
令和4年	孫留学1名（中学2年生）
令和5年	孫留学1名（中学3年生） 家族留学3名（小学2年生・小学5年生・中学2年生）
令和6年	家族留学2名（小学1年生・小学4年生）

令和2年度以降コロナウィルス感染症対策等により、島親留学募集は見送り。

【委員からの意見等】

<委員A>

■寝屋子の島留学事業については、少数とはいえニーズが認められるため、事業継続が可能な方向で教育委員会からの支援が続けられることが望まれる。

<委員B>

■寝屋子の島留学事業の目的に鑑み、相互の教育効果の向上と教育の振興充実が図られることを期待する。

【報告書全体を通しての意見】

＜委員Ａ＞

■令和５年度は、５月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが５類へと移行された年度であった。これに伴って、教育委員会の活動も「コロナ前」へと回帰することが求められたであろう。とはいえ、当初は「様子を見ながら」という配慮も働き、教育委員会が政策を判断し、実施するにあたっては多少の混乱や逡巡があったことが推察される。

そのような中で、令和５年度の教育委員会による活動は、全体としては十分に機能し、役割を果たしていたと評価しても差し支えはない。今後も引き続き、住民や保護者、児童生徒、学校からの要望やニーズをくみとりつつ、国や県の政策動向も参酌し、教育委員会が果たすべき事務を遂行していただくことを期待する。

＜委員Ｂ＞

■この「鳥羽市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書」は、一新された「第２次鳥羽市教育ビジョン」の３年目の事務に関しての令和６年度(令和５年度実績)のものである。項目ごとに掲げられた令和７年度の数値目標に向けて、順調な３年目となったものと、停滞若しくは後退しているものがある。改めて精査し、次年度に繋げて行ってもらいたい。昨年度は、この報告書の作成が、令和６年となってからとなったが、今年度は約２か月も早くなったことは評価できる。しかし、内容が変わったものもあるのに、「自己評価と今後の取組み」がほぼ同じものも多く、結果的に、「報告書作成」が目標となっていないか、本来の改善につながるのだろうかとの思いに今回もなった。次年度は「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」の具現化に向けて、最終年度にあと１年の時期となっており、一層子どもを中心に据えて、関係機関がさらに深く連携していくことを望むものである。